



徴古館報 第33号 2017年(平成29年)1月発行



鍋島茂真(安房)肖像画

「幕末佐賀の家老たち」



平成29年3月、佐賀城二の丸跡に10代藩主鍋島直正公の銅像が甦ります。これを機に、徴古館では平成28年12月5日(月)から平成29年1月22日(日)まで「幕末佐賀の家老たち」展を開催。直正公と、その意を受けて動いた家老たちとの関係を、嘉永6年頃までの長崎警備を中心に紹介する内容です。



展示室の様子

佐賀藩の組織力強化

佐賀藩の行政組織は、外役(藩の行政一般を担当)と内役(藩主家の家政を担当)の2つから成り立っていましたが、それぞれが独立していることに起因するすれ違いも生じました。そこで直正公は藩主直属の最高合議機関として御仕組所を設け、各組織のトップたちとの合議により、円滑な情報共有や政策決議を目指しました。また、直正公は藩の立て直しのため「家格や身分の上下、役職の違いを超えて融和し、憂いは皆で憂い、楽しみは皆で楽しみ、藩一丸となって尽力してほしい」と訴えるなど、藩全体の組織力の強化に意を注ぎました。

重臣家、兄弟たちとの間柄

9代藩主鍋島齊直公は46人の子女に恵まれました。17男である直正公の兄弟には、藩内の重臣家の養子となって家督を相続した方もあり、彼らとも良好な関係を築いていました。例えば、直正公が弟の茂快(太田鍋島家)宅で兄の賢在(神代家)や茂真(須古鍋島家)と共に花見をした際に詠んだ詩書「静春堂賞花」(県立佐賀城本丸歴史館所蔵)には、「欣然たる事有り。兄弟四人、手を携えて遊ぶ」とあります。重臣の立場から直正公を支えた兄弟たちとの親密な間柄も、円滑な藩政運営の重要な基盤の一つとなりました。

また、直正公の姉籠姫が嫁いだ鍋島茂義(武雄鍋島家)は、西洋砲術をいち早く取り入れ、藩の軍備の洋式化を支えました。直正公の末弟文武を養子に迎えた鍋島敬哉(倉

町鍋島家)は、御火術方や多布施公儀石火矢鑄立所の頭人を務めています。また、直正公の兄茂真の子吉達を養子に迎えた鍋島市佑(納富鍋島家)は、内役のトップ御年寄役を務めるなど、婚姻や養子による縁戚関係を結ぶことでも、その基盤はより一層強固なものとなりました。

直正公の右腕 鍋島茂真(安房)

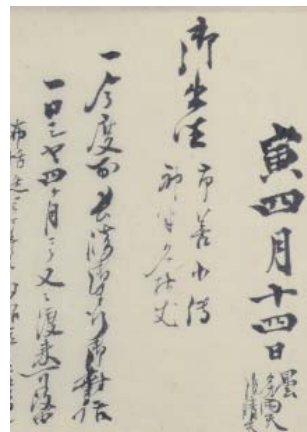
外役のトップである請役当役や藩校弘道館の頭人などを長きにわたり務めた鍋島茂真(須古鍋島家)も庶兄の一人です。佐賀藩を訪れた他藩藩士の見聞録(「西肥聞書」)では、茂真について「藩主ほどではないが、よほど勉強し政治への心懸けも強い」と評されており、「性格は勇気にあふれ、気力も逞しく、弘道館で徹夜するほどであった」と記されています。恰幅の良い体軀で描かれた肖像画(表紙写真)も、その人物像を伺わせます。また、直正公は漢詩に「茂真ほど本音で政治のことを議論できる間柄の者はいない」と詠んでいるほどで、藩政運営上の右腕として最も信頼した人物でした。



諸家同居馬騷昇図(須古鍋島家部分)

鍋島茂真が残した会議の記録帖

では、茂真も出席していた御仕組所では、どのような議論が行われていたのでしょうか。茂真が書き残した会議記録によると、嘉永7年(1854)4月14日、直正公は自ら長崎奉行所へ赴いて得た内密の情報を、直ちに御仕組所で家老たちと共有しています。その内容は、正月に一旦は長崎より帰帆したロシア船が4か月で再び渡来すること、次回はプチャーチンではなく同様の位階の者が船2隻で渡来する計画らしいこと、ロシア船にはオランダ語を話す少年や蒸気船に詳しい者も乗船していることなどです。これらは内密の情報ながら、長崎警備の現場を担当している重臣の諫早家には内々に伝えるようにと指示を出しています。この会議が行われたのは、直正公が長崎から佐賀へ戻った翌日。情報を自ら集め、家老たちや現場といち早く共有する藩主直正公の姿と御仕組所の機能ぶりを読み取ることができます。



御目通井公用諸控

「古地図で佐賀城下の魅力再発見！」

本事業は当館が核となり、市民団体や佐賀県・佐賀市などと組織している「さが城下まちづくり実行委員会」による事業です。佐賀城下絵図などの古地図を中心とした収蔵資料を活用し、郷土の歴史を再認識し、今後のまちづくりに繋げることを目的に平成21年度から実施しています。8年目となる今年度は、引き続き藩士名簿や褒賞録(藩士の褒賞記録)の調査・翻刻作業、およびデータベース整備を進めました。また、同時にこれらのデータをもとに各テーマに沿ってゆかりの地をめぐる佐賀城下探訪会を9月～12月にかけて、以下のテーマで4回開催しました。(カッコ内は参加者数)

第1回 9月22日(木・祝) (111名)

「有田・伊万里バスツアー」

有田焼創業400年を記念し有田・伊万里を訪れました。有田では磁器の原材料を採掘する泉山の磁石場や、有田焼を支えた内山地区の伝統的な町並み、伊万里では流通の拠点となった伊万里津や鍋島藩窯が置かれた大川内山を探訪。有田町歴史民俗資料館をはじめ地元の方々にご協力いただき実現しました。



第1回探訪会 有田の泉山磁石場

第2回 10月2日(日) (82名)

「2代藩主鍋島光茂公ゆかりの地」

2代佐賀藩主鍋島光茂公と、3～5代を継いだ光茂公の子息たちゆかりの地を巡る約10kmのコース。光茂公が自らの養育係・小倉女の菩提を弔うために建立した妙念寺をはじめ、42人の子女をもうけた光茂公が早世した子女のために建立した善応庵などの城下の寺社を中心に探訪しました。

本事業の波及効果

文化庁の支援による本事業は、古地図や藩士に関する資料調査・データ作成と城下探訪会の二つを主な柱としています。が、これまでに蓄積された2万件近い藩士データと33回を数える探訪会の成果は、事業の枠を越え多方面に波及しています。

例えば今年度、数十件あった市民やマスコミからの藩士に関する問合せにも本事業のデータを活用して応え、佐賀市教育委員会による城下での発掘調査などにも古地図が利用されています。また佐賀市により進められている「歴史まちづくり法」に基づく事業でも、長崎街道整備や城下入口の構口公園整備、古民家リノベーションなどの各メニューが古地図の分析に基づいて実施されています。さらにその一環として、城下への歴史案内板の設置事業も昨年度から着手されましたが、設置場所の検討や解説文の執筆は佐賀市と当実行委員会の共同で進めています。

それとともに、県立生涯学習センターや佐賀大学、市立公民館からの城下探訪会を応用した歴史まち歩きの依頼、地元まちづくり協議会や各団体から十数件あった古地図を用いた歴史講座の依頼にも応えるなど普及活動を今年度も継続しました。平成21年度に城下絵図の所在を調査し当館企画展で初公開するところからスタートした本事業ですが、古地図の利活用は学校教育や生涯学習の場のみならず、こうして市民や行政による調査、行政のまちづくりや観光政策の一端にまで次第に広がってきています。

第3回 11月6日(日) (91名)

「城下と有明海をつなぐ川港 三重津・寺井津・諸富津」

佐賀藩の船を管理する御船屋が置かれ、幕末には海軍所(跡地は世界文化遺産)が設置された三重津や、藩の御蔵が置かれた寺井津・諸富津。いずれも有明海と佐賀城下をつなぐ早津江川沿いに発達した3つの津(川港)を中心にめぐり、水運や漁業で栄えた往時の賑わいに思いを馳せました。



第3回探訪会 三重津海軍所跡

第4回 12月4日(日) (75名)

「佐賀城下の水系 東めぐり 佐賀江、巨勢川と十間堀」

平野に位置する佐賀城下周辺には、堀や江湖(海水が上下する川)が計画的に配置されていました。防壁や排水を担った十間堀、有明海と城下を結んだ佐賀江、排水や水運に利用された巨勢川などをめぐりました。また、城下の東の入口・構口の発掘調査による最新の現場状況を見学。往時の光景をほうふつとさせる堅牢な石積みは圧巻でした。



歴史案内板の現地検討会

青山霊園鍋島家墓所改葬

明治以降東京に居を移された鍋島家は東京都青山霊園に墓所を求めました。約400坪の広大な墓所は隣接する旧福岡藩主・侯爵黒田家墓所と並び、他に類のない壮観を呈していました。しかし、時代の推移と共に東京での墓参や管理が次第に困難となり、この度東京都に全面返還することとし、平成28年5月17日に引き渡し完了。佐賀の地に改葬されました。

青山霊園内鍋島家墓所(神葬)の造営は11代鍋島直大公夫人の胤子様が明治13年3月30日に亡くなられたことに始まります。以後、直大公実母の瀧村様(明治25年)、直大公(大正10年)、12代直映公夫人禎子様(昭和8年)、11代直大公継夫人栄子様(昭和16年)、直映公(昭和18年)と続きました。このほか分家(直大公男 貞次郎家)の方、直正公末弟の文武様のお墓も同時に改葬され、各家々の墓所に移されました。

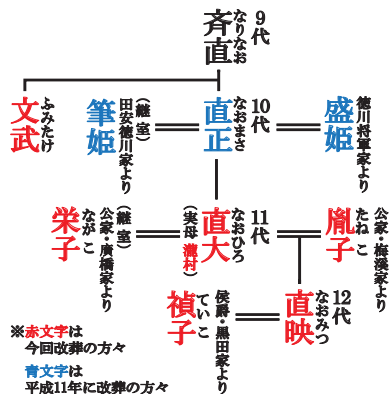
改葬作業は平成28年1月13日の神事に始まり、2月12日～14日にかけて柩の取り上げと火葬を行い、ご遺骨は15日に佐賀へ向かい、雪の舞う中、10代直正公の眠る春日御墓所(佐賀市大和町/神葬)の御祀堂へ安置されました。鳥居や灯籠、墓石などの一部も春日御墓所へ運搬。同時に12代直映公夫妻用と累代墓となる奥津城の2基を新設し、遺髪が納められていた既設の直大公墓には直大公



平成28年12月11日(日) 春日御墓所にて改葬奉告祭

と両夫人の3名のお骨を収納する石室を設置しました。

春日御墓所は小高い山上にあるため容易ではなかった移設作業も無事に完了し、去る12月11日、鍋島ご当主をはじめ関係者が参集し、改葬奉告祭が執り行われました。これにより10代から14代の方々がお揃いで春日御墓所に眠られることとなりました。なお、藩祖直茂公から9代藩主斉直公までの墓所は菩提寺の高伝寺にあります。



新収蔵品紹介

今年度、以下の13点の資料を当会へご寄贈いただきました。このうち、「惣番秩禄」は、第78回企画展「幕末佐賀の家老たち」で展示させていただきました。貴重な資料をご寄贈くださった方々に感謝申し上げます。

書画類(三好健雄氏・ゆふ氏)

三好不二雄氏(佐賀大学名誉教授/歴史学)の旧蔵書画。10代鍋島直正公や側近の古川松根の書など10点。

鍋島直大書扁額(鍋島道雄氏)

11代鍋島直大公による書「醇厚成俗」扁額。

野中正陽書(野中富美也氏)

野中正陽氏の書。10代鍋島直正公が神野御茶屋で手折った白菊を側近の古川松根に贈った際の和歌色紙。

惣番秩禄(石井忠明氏)

石井忠皎(松之助)が慶応3年(1867)に作成した、佐賀藩の上級家臣25家および藩士の名簿。



惣番秩禄

展示案内

「鍋島家の雛祭り」展

平成29年2月11日(土)～3月31日(金)

毎年恒例の「鍋島家の雛祭り」展を開催します。古写真をもとに往時の雛祭りになった、長さ5mと6mの二つの大雛壇飾りに、明治から昭和初期の歴代夫人が愛しんだ雛人形・雛道具約500点が並びます。

さらに今年は香道具も特別陳列いたします。雛飾りとともに、趣向を凝らした香道具の数々をご堪能下さい。



徴古館報 第33号 2017年(H29)1月発行
 公益財団法人 鍋島報効会

〒840-0831 佐賀市松原2丁目5-22
 TEL・FAX (0952)23-4200 MAIL info@nabeshima.or.jp
 URL http://www.nabeshima.or.jp